

プロメテウスホール 同時通訳設備の使い方マニュアル

①-1 ご利用にあたってのお願いと注意事項

必ずお読みください

プロメテウスホールの同時通訳設備(以下「同通設備」)は、国際的な講演会や多言語対応イベントで重要な役割を果たす、高度に専門的なシステムです。

どなたでもご利用いただけますが、**原則としてセルフサービス方式での運用となります。**

(予約方法、使用までの流れは次のページをご確認ください)

サポートの範囲について

同通設備は専門性が高く、教育情報化支援室では**基本的な操作案内以上のサポートは行っていません**。使用方法の確認やトラブル対応には、設置業者／メーカーへの照会が必要となり、**即時対応はできません**。本設備のご利用にあたっては、**本マニュアルやメーカー取扱説明書等を参考に入念なリハーサルを行い、主催者の責任において機器使用方法を十分に理解した上でご利用ください**。通訳体制(例:「どの言語を訳すか」「通訳者の人数」)や、BOSCH DCN-IDESK-D(以下**IDESK**)のイベント内容に合わせた設定のカスタマイズ等、主催者で適切に設定・運用してください。

設備の維持・共有利用に関するお願い

同通設備は、外部業者によって年1回(8～9月)、定期点検時に動作チェックと最小限の修繕が行われますが、**日常的な動作チェックは行われていません**。このため、**利用者同士の良識とマナーを前提とした共同利用**となります。

本番前には、**日時に余裕をもって、入念な動作確認およびリハーサルを行ってください**。また、次の利用者に支障が出ないよう、丁寧に使用し、**設備トラブルがあった場合には速やかに報告をお願いします**。トラブル発生時には、施設企画課にご連絡のうえ、当教育情報化支援室にも情報共有(例:メールCCなど)をお願いいたします。

よくあるトラブルと対応の準備

機器の経年劣化により、ノイズ混入やバッテリーの持ち時間低下などの不具合が発生しています。→ **本番で困らないよう、動作確認・リハーサルでのチェックが重要です**。

子機の充電には時間と場所の確保が必要です。**フル充電には約2時間**かかりますが、電力負荷が高いため、複数の電源システムのコンセントに場所を分散して充電する必要があります。→ **充電時間とスペースの確保を行い、確実な充電を行ってください**。子機の確実な動作を期するため、イベント当日も再度充電することが奨励されます。

なお、バッテリー劣化が疑われる端末には、付箋等で印をつけておいていただけると、次の定期点検時(8～9月)に業者による点検がスムーズに行えます。

ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

⑨-2 予約方法、使用までの流れ

同通設備の鍵の開錠について

プロメテウスホールの同通設備は常時施錠されています。通常のホール予約では開錠されませんので、**利用の際は必ず、ホール予約時に施設企画課へ「同通設備を利用する」旨を申請してください。**イベント当日は、申請内容に基づき、**守衛室が利用時間に合わせて鍵を開閉します。**また、**ホール内にある3か所の同通関連室のうち、どこを使用するか**も正確に伝えてください。(下記参照)

使用可能な部屋(3か所)

予約時に、利用する部屋を正確に施設企画課へ伝えてください。多くのイベントは同時通訳室の1部屋のみで事足りますが、多言語対応のイベント等ではブースA Bも含めた3部屋全てを使用する場合もあります。

- **同時通訳室**(ホール後方)
 - 設置器機:**IDESK x 2台、子機**(約360台、充電トランクに収納)
 - 備考:子機がなければ来場者に通訳音声届けられないため、**必ず開錠が必要。**
ヘッドホン:常設あり。持ち込みも可。(接続仕様:6.3mm標準ステレオプラグ。ミニプラグ(3.5mm)使用時は変換プラグをご用意ください。)
- **同時通訳ブースA**(ステージ向かって右上手前)
 - 設置器機:**IDESK x 2**
 - ヘッドホン:常設なし。持参必須。(仕様は同時通訳室と同一)
- **同時通訳ブースB**(ステージ向かって右上奥)
 - 内容はブースAと同じです。

使用までの流れ

本番までに、子機の充電と、リハーサル・動作確認を必ず行ってください。

1. ホールの予約

- 日程が確定次第、施設企画課へ、ホールを予約する。
- 併せて、同時通訳室を使用する旨を伝える。(必要に応じてブースA Bを追加)

2. 子機バッテリーの充電

- 子機の充電には**約2時間**かかります。**充電トランクは計7台あり重量もあり、かつ異なる系統のコンセントまで運んで充電する必要があるため、複数人で作業することが推奨されます。**
- イベント当日に充電する場合は、**充電時間を含めて十分余裕をもって予約してください。**
- 数日前～前日など、事前に子機のバッテリーを充電する場合は、**別途、充電目的でのホール利用について、施設企画課に相談・予約を行ってください。**

3. リハーサル・動作確認

- 同通設備の機器動作確認や通訳オペレーションのリハーサルを行ってください。
- この際も子機の充電が必要となるため、リハーサル開始前の**充電時間も含めて予約しておく**と効率的です。

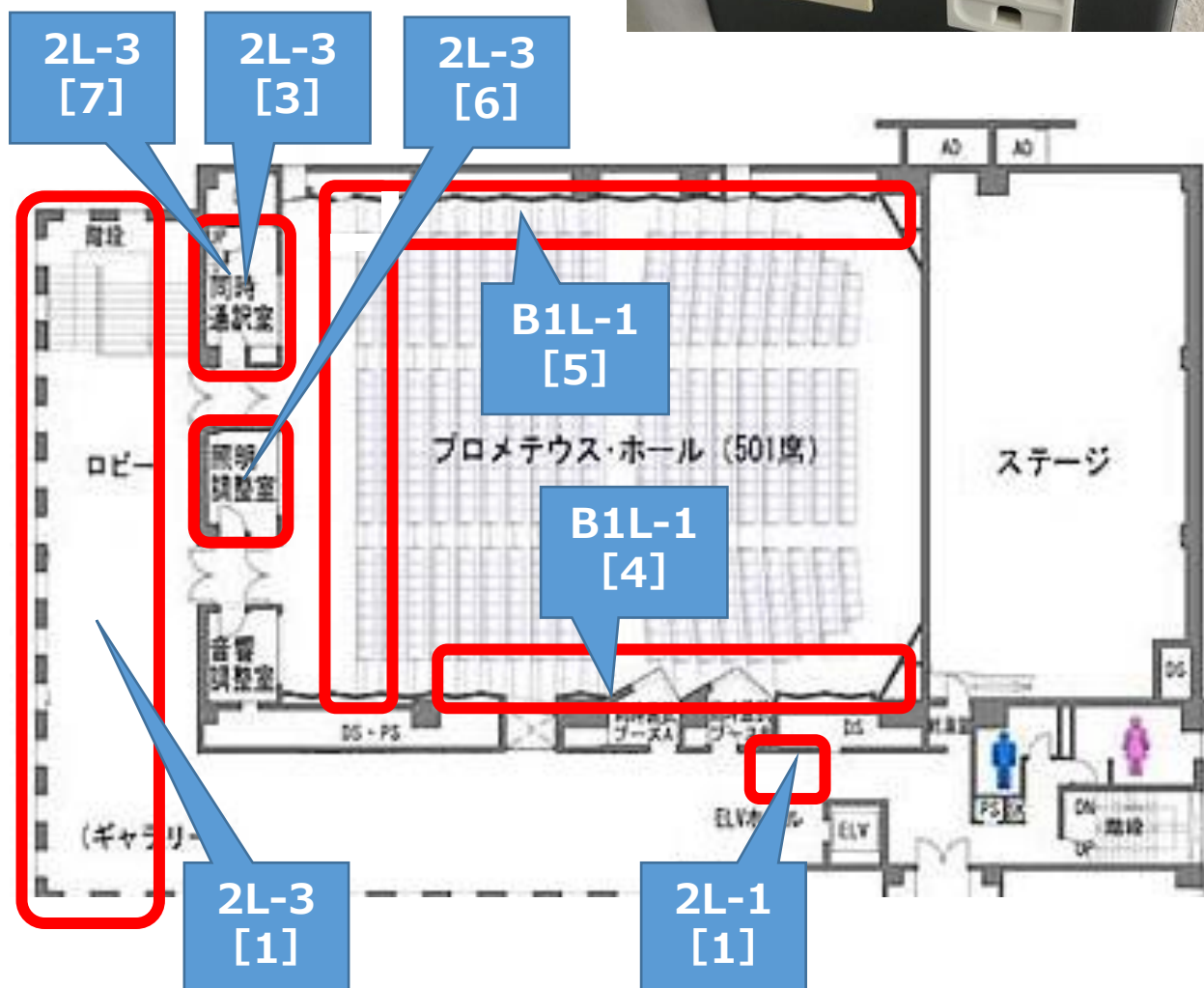
①-1 子機を充電する

重要！ 充電トランクの消費電力は1台当たり560Wです。同一の識別子のコンセントに1台以上の充電トランクを接続しないでください。許容電力を超えるとブレーカーが落ちます。

- 充電トランクは最大で7台を使って充電することができますが、以下のフロア図を参考に、必ず、各充電トランクを異なる識別子のコンセントで充電するようにしてください。

コンセントの識別子の上下段すべてが一致している場合、同一のブレーカーに繋がっています。最大電力(1500W)を超えるとブレーカーが落ちます。充電トランク2台(560 x 2 = 計1120W)での利用は念のため避けてください。

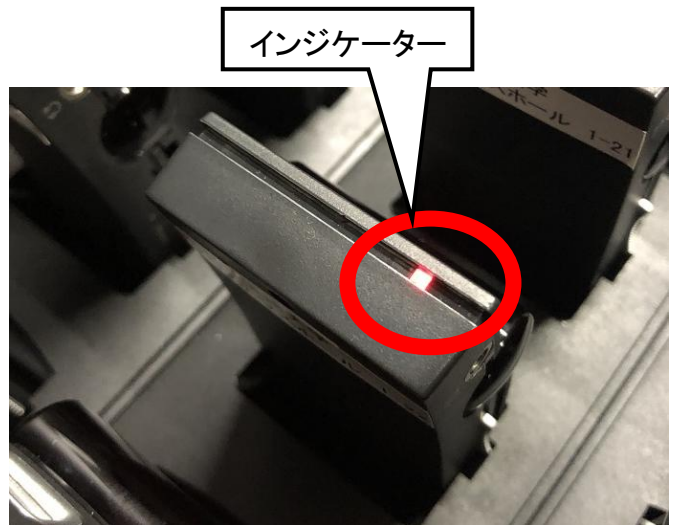
もしブレーカーが落ちてしまった場合は、施設企画課電気係まで連絡して、事情を説明の上、復旧を依頼してください。



例として、上図に示したエリアで充電を行うと、ブレーカーを落とすことなくトランク7台同時に充電を行うことができます。

①-2 子機の充電状況を確認する

- 子機の充電状況はインジケーターで確認できます。
 - 赤色点灯: 充電中(正常)
 - 赤色点滅: 充電エラー(バッテリー不具合もしくは接触不良)
 - 点灯しない: 本体の故障もしくは接触不良
 - 緑色点灯: 充電完了
- 充電開始時、またその後も何度か、インジケーターの状況を確認してください。正常に充電されていない子機があった場合、**挿しなおす、他のソケットに挿し変える、などで解決する場合があります。**
- 満充電に要する時間は、**1時間45分**です。
- 緑色点灯となった子機のみを、イベント本番用として使用してください。



お願い

- 正常に充電できなかった子機には、付箋などでメモを残していただけると助かります。**
- 毎年8月～9月の業者によるプロメテウスホール設備の総点検があり、同通子機のバッテリー耐久テスト(6時間連続使用)を実施しています。付箋にメモがあることで、業者側で不具合のある子機を分別しやすくなるため、ご協力をお願いいたします。

①-3 子機とのイヤホンの貸出管理をする

- 子機の電源をONにするには、専用のイヤホンの子機本体に挿す必要があります。
- 子機およびイヤホンの紛失がないよう、**主催者において、貸出、返却の管理を徹底してください。**事前に参加者名簿がある場合は、一覧表を作成し、貸し出した子機の番号などを控えておくとう確実です。
- イヤホンの返却忘れが起こりやすいため、会場でアナウンスをする、返却時のチェックを徹底するなどして、返却忘れのないようにしてください。
- 返却されたイヤホンは、付属の針金(ワイヤータイ)で結わえて、整理して専用のケースに戻してください。

② システムの概要

型式: BOSCH DCN (Digital Congress Network) IDESK-D 以下、**IDESK**

ホール天井に赤外線式ラジエーターが設置されており、子機の赤外線受光部で受信して訳出音声を聞くことができます。子機は、Ch0 Ch1 Ch2 Ch3の、計4チャンネルを受信することができますが、このうち、**Ch0はFloorの音声に固定**されており、訳出音声用のチャンネルとしては使用できないため、**同時通訳で扱えるのはCh1～3の3チャンネル分**です。

子機は赤外線式のため、子機の受光部が隠れると受信できません。**ポケットに入れたり、資料を上置きしたりすると受信できなくなる**ので、来場者へ使い方を周知してください。

子機は稼働可能なものが約360台あります。プロメテウスホールの収容人数は最大で500人のため、全員分はありません。

同時通訳者用の部屋は3つあり、以下のようになっています。

- 同時通訳室 (Booth No.3) : ホール後方にあり、同通用機材が設置されています。
- 同時通訳ブースA (Booth No.1) : ステージ向かって右側面にあります。
- 同時通訳ブースA (Booth No.2) : ステージ向かって右側面にあります。

※ Booth No. はIDESKシステム上での識別用の番号です。

各部屋には、同時通訳者用コンソールであるIDESKが、2台ずつ設置されており、2人ペアでのチーム通訳ができるようになっています。3部屋で、計6人の同時通訳者がIDESKを使用することができます。

IDESKの設定は、イベントによってカスタマイズする必要がありますが、Ch割り当ては以下が一般的です。

- Ch1 JAP (日本語)
- Ch2 ENG (英語)
- Ch3 XXX (イベントでその他の言語が必要な場合)

Ch4以降は、IDESK上では設定できますが、**子機がCh3までしか受信できないので、実際には使えません**。このため、**プロメテウスホールの同通設備では、2言語間の同時通訳を基本として、同時通訳の出力は、最大で3言語となります**。

イベントの多くは日英間の同時通訳となるため、同時通訳室の1部屋だけを使用するケースが多いですが、英→日、日→英の部屋を別々にしたい場合や、日英以外の第3の言語も使う場合などは、必要に応じて、ブースAやブースBも使用すると良いでしょう。

※IDESKでは日本語の省略としてJPNではなくJAPが用いられる仕様となっています。

③ 子機の使用手法

- 子機の電源をONにするには、専用のイヤホンを挿す必要があります。**イヤホンを挿していないと電源がONになりません。**来場者が戸惑うポイントの一つなのでイベント冒頭で周知すると良いです。
- 子機本体の電源ボタンを押すと子機がONになり液晶画面にChが表示されます。
- この時、**バッテリー残量が少ない場合、バッテリーのアイコンが表示されます。**こうした子機は回収して、バッテリー残量が十分なものと交換してください。満充電していたにも関わらずこのアイコンが表示されるなど、バッテリー劣化が疑われる場合は、付箋などを貼っておいていただけると、8～9月の業者点検の際に業者が点検しやすくなるので、ご協力をお願いいたします。
- 本体右側面のボタンで、チャンネルを変更**できます。
- 各チャンネルの言語は主催者側でイベントの内容に応じて決める必要がありますが、日本国内を会場とした場合、慣習的に以下の設定が用いられることが多いです。
 - Ch0 Floorそのまま(変更不可)
 - Ch1 JAP
 - Ch2 ENG
 - Ch3 その他の言語(使わない場合は選択肢として表示されない)
- システム側で設定を割り当てたChのみ、子機側で選択することが可能です。システムで使用していないChは、子機側では選択肢として表示されません。(子機操作のCh変更操作の簡略化のため)
- 各Chの割り当ては、主催者が来場者に周知する必要があります。**司会がアナウンスする、スクリーンに表示させるなどの手段で周知してください。
- 併せて「子機は赤外線式なので、受光部を隠すと受信できない」という点も来場者に周知すると良いです。(ポケットに入れたり、上に紙を置いたりすると音声が届きません)



④-1 通訳者コンソールの起動と、イベント前の事前設定

1. 同通システム全体の電源をONにする。
 - ・ **同通システムの電源は、プロメテウスホールのシステム主電源に連動しています。**
 - ・ 「音響調整室」もしくは「舞台袖操作卓」で主電源をONにすると連動して起動します。
2. 起動後は、IDSKには、前回使用したユーザーの設定したSystem設定、Desk設定が残っています。**Installation Mode** を起動して、ご自身のイベントの内容に合わせて、System設定・Desk設定を、設定してください。
 - ・ 「Installation Mode」に入るには、IDSKの **Bボタン+bボタンを同時押し**してください。
 - ・ イベント内容に応じたSystem・Desk設定については、添付資料「**IDSKのイベントに応じた設定方法&参考事例**」を参照ください。
3. Auto-relayを用いて、ピボット言語を介した同時通訳を行う場合は、ピボット言語とする言語を、Auto-relayを供給するIDSK上で、出力Bとして割り当ててください。
 - ・ **出力Bを変更するには、Bボタンを押しながら、ノブを回します。**
 - ・ 会場が日本の場合、通常、ピボット言語は、日本語、もしくは英語を割り当てる人が多いです。通訳者間で共通で理解できる言語を選んで指定してください。



④-2 IDSKの操作方法(基本)

お願い: IDSKの詳細な操作方法是、メーカーマニュアルを参照してください。以下では基本的な事柄のみを紹介しています。

- ・ 液晶画面の左側には通訳者が聞くことのできる音声、右側には出力先のCh(言語)が表示されています。
- ・ Micro ボタンを押すとマイクがONになり(赤点灯)、通訳者の声が、子機の当該Chで聴けるようになります。
- ・ マイク音声の出力先は、A B のボタンで、出力先のChを選ぶことができます。
- ・ 出力Bは、Auto-relayを使ってピボット言語を用いた同時通訳を行う場合に使用されます。**Auto-relayでピボット言語を使用する場合は、必ず、出力Bに割り当ててください。**
- ・ 出力Aは、Auto-relay用として**使用されません**。また、出力Aは、通常の状態では**変更できません**。**出力Aを変更するには「Installation Mode」に入ってください。**

④-3 その他の機能

スピーカー

- スピーカーのボリュームを上げると、イヤホンを使わずに、スピーカーから音を聞くことができます。
- ソースを変更するには、ノブを回してソースを選び、ノブを押して確定させてください。起動直後のデフォルトは「Floor」ですが、自由に変更できます。
- ハウリング防止のため、同一室内でマイクがONになっていると、スピーカーは自動的に無効化されます。

Preselected incoming channel ボタン a ～ e

- 多くの同通イベントでは、Floor key ボタンで、Floor音声を聞きながら同時通訳を行います。必要に応じて、a～bのボタンにあらかじめ割り当てられたChの音声を聞くことも可能です。
- 言語の割り当てのあるChから好きなものをあらかじめ登録してください。
- 変更方法:a～bの変更したいボタンを押しながらノブを回すと変更できます。

記号の意味

- FLOOR:オリジナル音声です。
- +:オリジナル音声から直接訳出された音声です。
- -:ピボット言語を介して訳出された音声です。

出力ボタン

- AとBの2つの出力先を切り替えることができます。
- その出力先へ、すでに別の通訳者からの音声が出力されている場合、「Engaged」(使用中)インジケーターが光ります。
- 変更方法:
 - Aは変更できません。Installation Mode から変更してください。(B+b)
 - Bは変更可能です。Bボタンを押しながら、ノブを回して変更してください。
- Bは、「Auto-relay」用のピボット言語として使用されます。

Call / Chair / Slow / Help

- これらの機能は、プロメテウスホールの同通設備では使用できません。

⑤ 同時通訳室の室内の各種照明

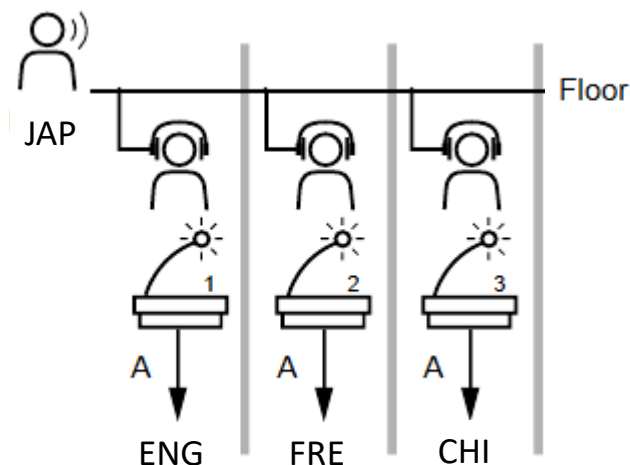
- 同時通訳室には、3種類の照明があります。
 - 通常照明:入口右手のスイッチでONにできます。
 - 調光照明:入口右手の窓際のスイッチでONにできます。
 - デスクライト:各通訳者の手元の資料を見るのに使用できます。
- イベント本番中は、メインの照明をOFFにして、ツマミで明るさを微調整できる照明を適度に使用することで、同時通訳室がホール内から目立たなくなります。

必要に応じてこれらの照明を使い分けてください。

⑤-1 参考情報 通訳の種類

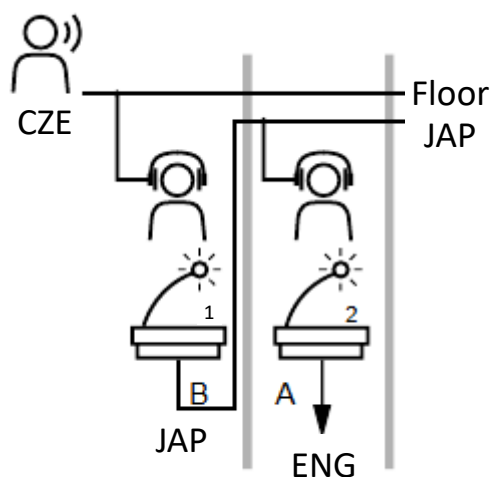
ノーマル通訳: Floor言語を聞きながら通訳する場合

- コンソール中央のボタンで「Floor」を選択して通訳を行います。



リレー通訳: Floor言語ではなく、ピボット言語を聞きながら通訳する場合

- 事前にInstallation Modeで、Auto-relay sourceとなるBoothの数と、Booth No. を設定します。
- Auto-relay sourceとなるBoothが出力Bへ音声を出すと、システムによってピボット言語として認識され、他のBoothは、自動的に、通訳者の聞く音声が、Floorから Auto-relayへと切り替わります。



例として、講師がチェコ語(CZE)で講演を行う場合で、同時通訳を担当できる通訳者が、

- 日本語⇄チェコ語なら通訳可能な通訳者
- 日本語⇄英語なら通訳可能な通訳者

上記の同時通訳者が揃っている場合、

日本語→チェコ語

日本語→英語

チェコ語→日本語→英語

英語→日本語→チェコ語

上記のように、日本語をAuto-relayの「ピボット言語」とすることで、計3言語を扱った多言語イベントを行うことができます。(参加者は、日本語、英語、チェコ語の中から理解できる言語を選んで聴講でき、また、自身の言語で質問をすることができます)

⑤-2 参考情報： システム構成機器一覧

同時通訳者コンソール

BOSCH DCN-IDESEK-D LBB4120/00（略:IDESEK） 2台 x 3部屋

子機(赤外線受信機)

BOSCH LBB 4540/04

56台 x 7セット = 392台 ※破損・不具合端末を除いた実際の使用可能台数は約360台
プロメテウスホールは500人のため、全員分はありません。

充電トランク

BOSCH LBB 4560/00-JP

7台（各子機56台を収納／充電） ※消費電力 最大560W

上記の他、以下の設備も設置されていますが、通常はユーザーが使用することはありません。

コントロールユニット

BOSCH LBB4100/00 Central Control Unit

予備：仮設ラジエーター

BOSCH LBB 4511/00

2台（最大1300㎡の範囲をカバー：ホール外で子機を使用する必要がある場合に使用）

⑤-3 参考情報： Q&A

Q1: 自分が通訳を担当しているチャンネルで、Floorで訳出先の言語が使われているため、Microを押さず通訳をしない時、当該Chには自動でFloor音声流れますか？

A: BOSCH IDESEK では、例えば、Floorが日本語の際にCh1JAPにFloorを流すといった機能はありません。訳出者のマイク音声のみが流れますので、訳出不要の場合は無音になり、聴講者は出演者の生声を聴くことになります。なお、聴講者が子機をCh0に変更すればFloorの音声をそのまま聞くこともできますが、その場合は、言語が切り替わるタイミングで再度Chを変更する必要性が生じます。

⑤-4 参考情報： マニュアル類について

プロメテウスホールに設置されている、BOSCH DCN IDESEK-D は、メーカー公式のマニュアルがネット上に掲載されていません。

マニュアルは印刷したものが同時通訳室に、日本語と英語、それぞれ設置されています。

なお、英語版のマニュアルは、<https://www.manualslib.com/> で見つけることができるので、必要に応じて参照してください。